八戸市こどもモニター制度
自転車の交通安全についてのアンケートの概要

アンケートの実施結果は以下のとおりでした。
こどもモニターの皆さん、ご協力ありがとうございました。

概要

1．実施期間　　令和８年７月２１日（火）～８月１０日（月）
2．回答者数　　９５人
3．回 答 率　　９５％（９５人／１００人）
4．実施方法　　インターネットによるモニター調査
5．調査実施者　八戸市市民環境部　くらし交通安全課

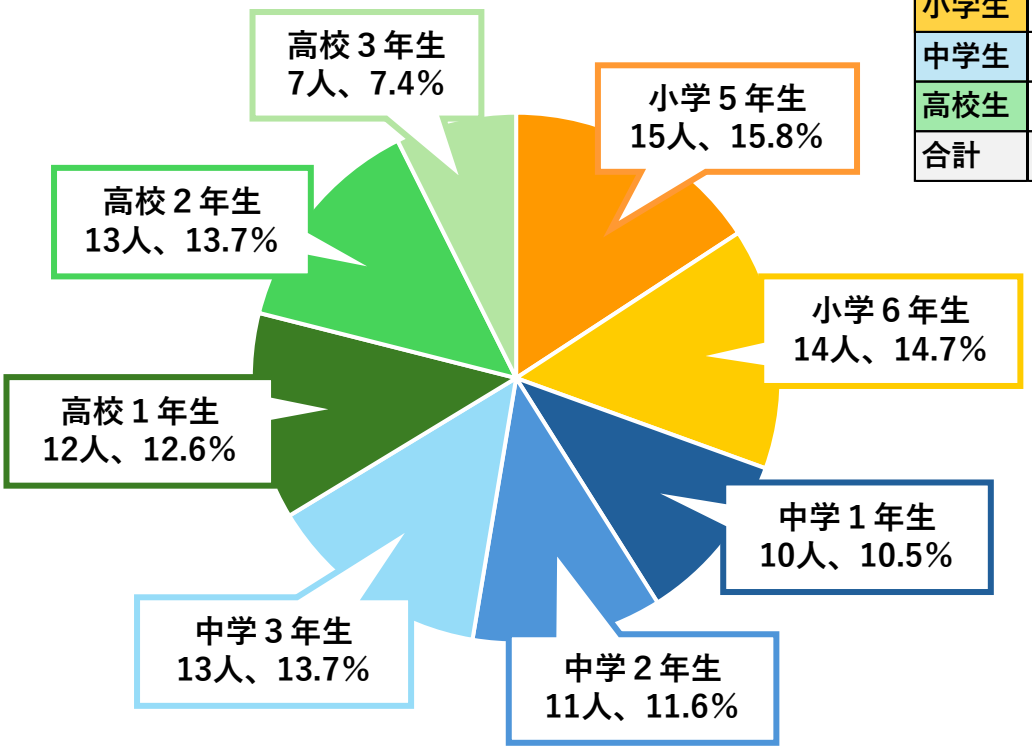
■ アンケート結果概要

※問１及び問３は個人を問う設問ですので、省略いたします。

問２　学年を教えてください。【ひとつえらぶ】

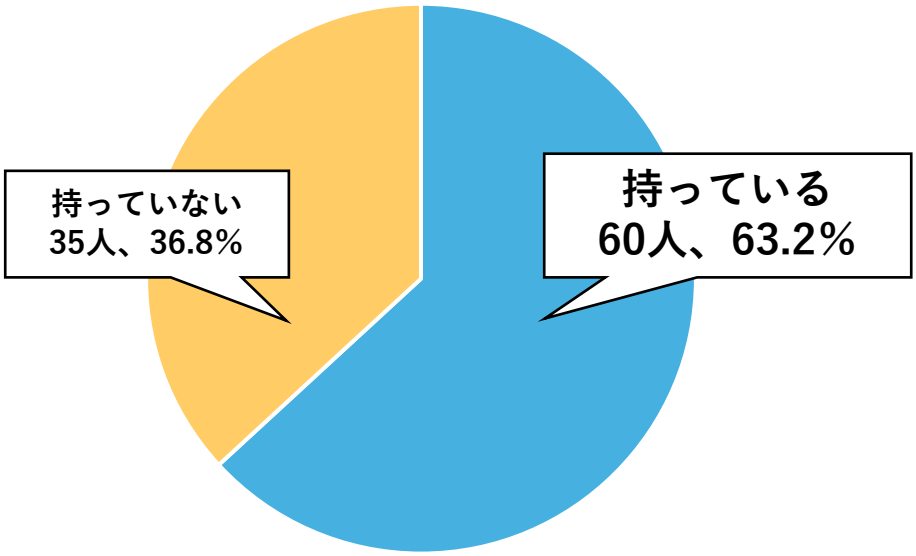
今回答えていただいた方の年代は、下の円グラフのようになりました。

	回答者数	構成率
小学生	29人	30.5%
中学生	34人	35.8%
高校生	32人	33.7%
合計	95人	100.0%



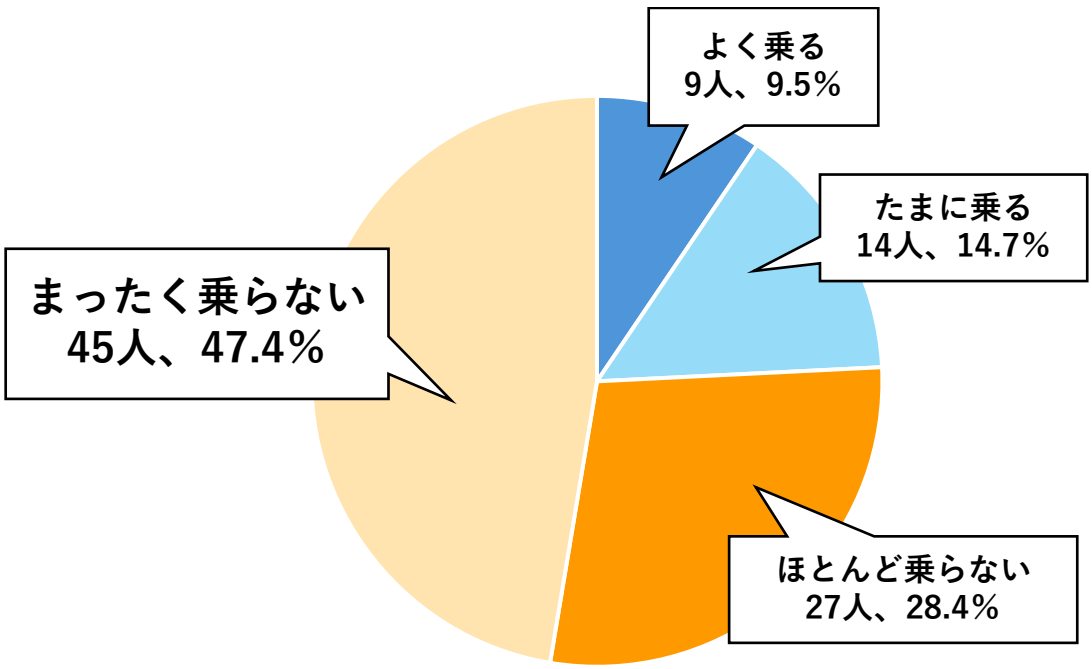
問４　自転車を持っていますか？【ひとつえらぶ】

「持っている」と答えた人が60人（63.2%）、「持っていない」と答えた人が35人（36.8%）で、自転車を持っている人が多いことがわかりました。



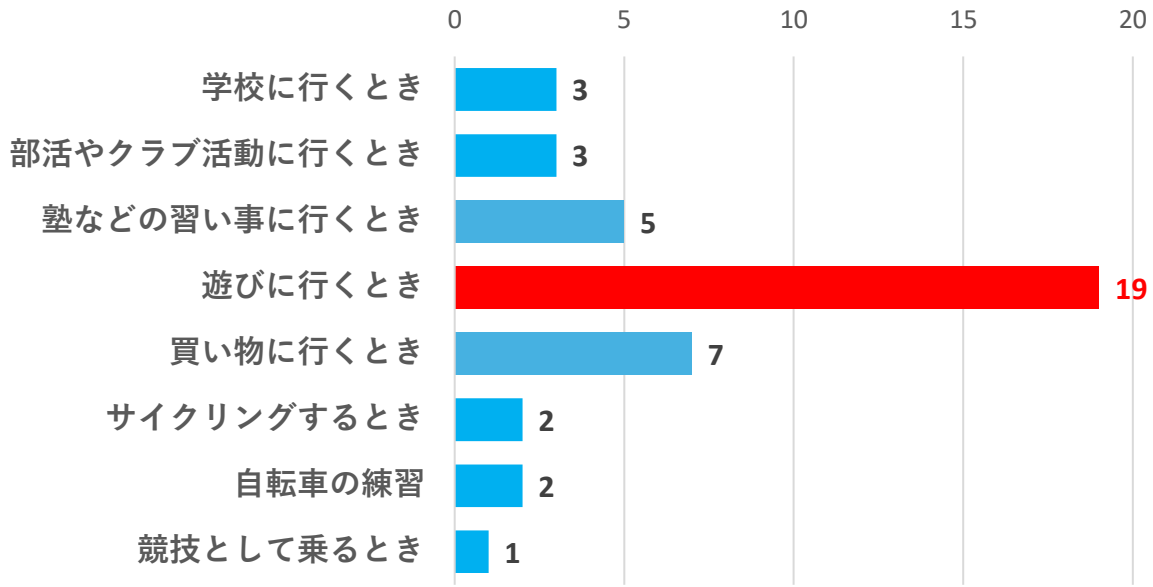
問５　普段どのくらい自転車に乗りますか？【ひとつえらぶ】

「よく乗る」と答えた人や「たまに乗る」と答えた人は併せて23人（24.2%）でしたが、「ほとんど乗らない」、「まったく乗らない」と答えた人は併せて72人（75.8%）で、自転車に乗らない人が多いことがわかりました。



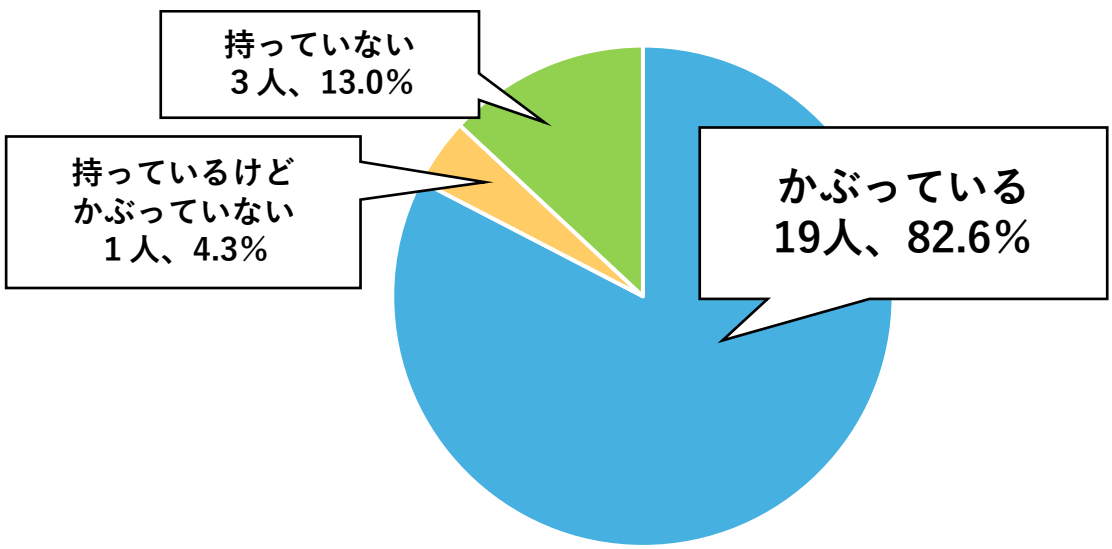
問６　問５で「よく乗る」「たまに乗る」と答えた人に質問します。
　　どんなときに自転車を使いますか？【いくつでも】

問５で「よく乗る」、「たまに乗る」と答えた23人に、どんなときに自転車を使うか聞きました。
「遊びに行くとき」が最も多く19人（45.2%）で、次いで「買い物に行くとき」が７人（16.7%）、「塾などの習い事に行くとき」が５人（11.9%）でした。



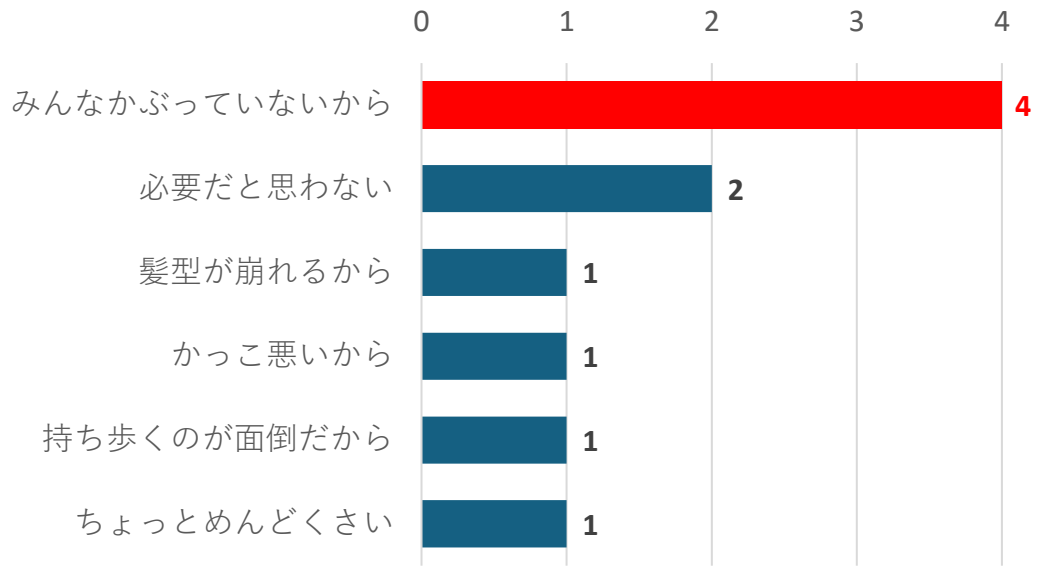
問７　問５で「よく乗る」「たまに乗る」と答えた人に質問します。
　　自転車に乗るときにヘルメットをかぶっていますか？
　　【ひとつえらぶ】

問５で「よく乗る」、「たまに乗る」と答えた人に、自転車に乗るときにヘルメットをかぶっているか 聞きました。
「かぶっている」と答えた方は19人（82.6%）で、「持っているけどかぶっていない」と答えた方が１人（4.3%）、「持っていない」と答えた方が３人（13.0%）でした。



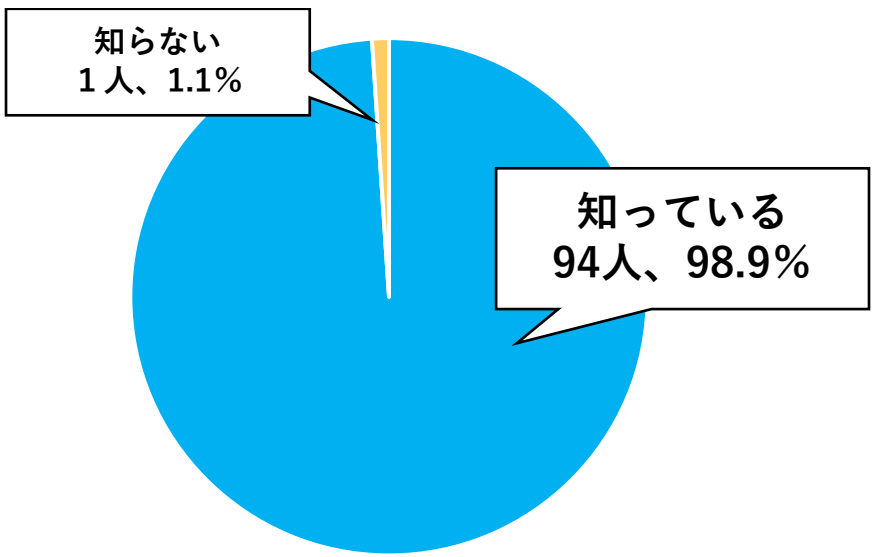
問８　問７で「持っているけどかぶってない」「持っていない」と答えた人に質問します。
ヘルメットをかぶらない（持っていない）理由を教えてください。
【いくつでも】

問７で「持っているけどかぶっていない」、「持っていない」と答えた方に、ヘルメットをかぶらない（持っていない）理由を聞きいた結果、「みんなかぶっていないから」が最も多い結果となりました。



問９　ヘルメットをかぶらないで自転車に乗ると、交通事故にあったときに頭を強くぶつけて大ケガをしたり、亡くなる危険が高いことを知っていますか？
【１つえらぶ】

「知っている」と答えた方は94人（98.9%）で、多くの人がヘルメットをかぶらないで自転車を運転する危険性を知っていることがわかりました。



問10　ヘルメットをかぶらないで自転車に乗る人を見かけることがあります。
　　どうすればヘルメットをかぶるようになると思いますか？
　　（記入例：交通安全教室でヘルメットをつけるよう呼びかける）

たくさん意見をいただきましたので、一部を抜粋して記載します。

【ポスターやチラシで広報する】
・自転車のヘルメットをかぶりましょうのポスターを作る。
・呼びかけるポスターやチラシを児童生徒に作らせて、そのポスターを地域に貼る。
・ヘルメットを使用することでのメリットを、ポスターやCMで宣伝する。
・ヘルメットなしで自転車に乗ることの危険性や、ヘルメットをかぶることのメリットをまとめたチラシを学校で配る。

【動画で広報する】
・ヘルメットを付けないと危険だという、実験動画を見せる。
・事故動画を見せる。
・事故の怖さを知ってもらうためスタントマンなどの動画などを色々なところで流す。
・ヘルメットをつけるようコマーシャルなどで呼びかける。

【学校で広報する】
・交通安全教室でヘルメットを付けるよう呼びかける。
・学校の授業で説明する。
・学校や公民館などで自転車の交通安全について学ぶ機会をつくる。
・中学生以上が参加する交通安全教室などでは、ヘルメットの有無による自転車事故の際の死亡率の比較を可視化した資料を用いて着用を訴える。
・中高生には、講演会又はSNSでヘルメットを被っていたときと被っていなかったときの死亡率などを数字で示すなどが効果的だと思います。
・学校に、ヘルメットをかぶらないで起きた事故画像を掲載する。
・学校で子供達が絵を描いたりしたチラシを作り、配る。

【家族で話す】
・家庭でも、ヘルメットの話をする。
・ヘルメットをかぶらないと、もし事故にあった時にどうなるのかを家族で話す。
・保護者へも（自転車の）講習が必要だと思う。

【イベントで広報する】
・交通安全のイベントを増やし、ヘルメット着用を呼びかける。
・交通ルールについてのイベントを開催する。
・たくさん人が集まる場所で宣伝する。

【指導の強化】
・見かけたら注意する。
・警察官がパトロールする。
・警察官が立って呼びかけたり、横断幕をつけてみんなに知ってもらえるようにする。
・口頭の注意だけでは効果的とはいえない。
・それぞれの会社や学校でルールを決める。

【罰則を強化する】
・罰則を作る。
・ヘルメットの無着用を反則金の対象にする。
・子供の危険が増すから、必ず着用しなきゃ年齢問わず捕まるようにする。
・（ヘルメットの）着用を努力義務ではなく義務付ける。

【広報の方法】
・ヘルメットをつけていない人が事故に巻き込まれた場合、どのような損傷を受けるか実演したり講演したりする。
・ヘルメットをつけようだけではなく、ヘルメットをつける必要性、ヘルメットをつけないで起きた事故の怖さをしっかり伝える。
・実際に事故に遭った方に講演をお願いする。
・ヘルメットをかぶらず事故にあった人の体験談を交通安全教室で伝える。
・自転車の事故を疑似体験する。
・体験することが大事だと思います。
・ヘルメットを被った場合と被らない場合を比較したものを映像でなく、実際に見せる。
・転倒して頭を打ったが、ヘルメットが割れることで衝撃が吸収され、無傷で済んだという実際の体験談や写真を公開する。もし未着用だったらどうなっていたかという医師や専門家のコメントを添えて説得力を高める。
・交通安全教室で交通事故にあったとき、亡くなる可能性が高いことを分かってもらい、自分の命がヘルメットを着けるか着けないかで変わることを知ってもらう。
・大きい事故が起きたら、自分も相手も危険な状態になるかもしれないから、命の大切さを伝える。
・ＳＮＳやポスターなどで今まで以上にヘルメットを被ることの重大さを発信する。また、そのときの具体的なデータを用いる。
・ルールをきちんと認識して、リスクも認識させる。

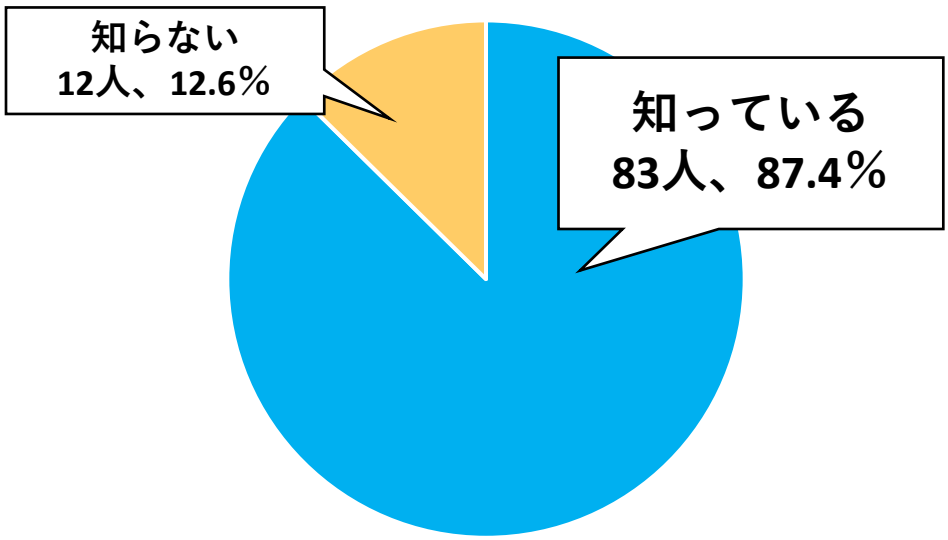
【ヘルメットを配る・売る】
・市でヘルメットの貸し出しをする。
・市にもし余裕があったら一部の人にヘルメットをプレゼントする。
・学校からヘルメットを配布する（スタイリッシュなものやかぶりやすいもの）。
・ホームセンターや自転車店だけでなく、身近なところで売る（公共施設など）。
・店に置くヘルメットのバリエーションを増やす。
・ヘルメットを安くして買いやすくする。
・自転車を買う際ヘルメットも買わせる。

【ヘルメットのデザイン】
・ヘルメットをファッションの一部に取り込む。
・デザイン性のあるヘルメットが身近に売っていると使いたくなると思う。
・通気性のよいものや見た目が可愛いヘルメットをつくる。
・見た目を変える。ヘルメットに見えないキャップ型にする。
・快適につけれるヘルメットを作る。
・かぶりやすいような形にする。
・かっこいいヘルメットを開発する。
・おしゃれで被りたいと思うようなヘルメットを普及させて、安い値段で買えるようにすればいいと思う。
・おしゃれなヘルメット又はカッコいいヘルメットを様々な店舗で取り扱う。

【その他】
・ヘルメットを被っている人（職員）を走らせて、みんな被っていると思わせる。
・キャンペーンで、ヘルメットを着用したらポイントをあげる。
・呼びかけをしても意味がない。
・ＶＲで事故にあえばどうなるのかを疑似体験してもらう。

問11　今年４月から自転車の交通違反に青切符が導入されました。
自転車の青切符は「16歳以上」が対象で、「反則金（はんそくきん）」があることを知っていますか？【１つえらぶ】

「知っている」と答えた人は83人（87.4%）で、多くの人が対象になる年齢や反則金があることを知っていることがわかりました。



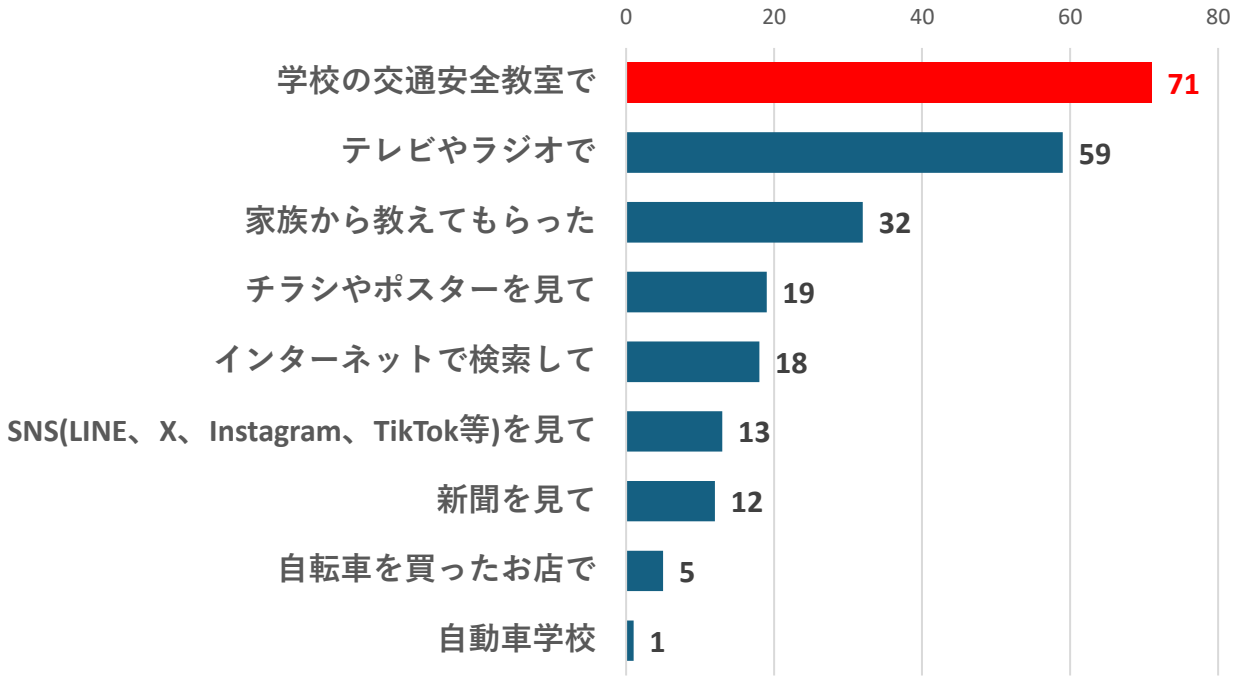
問12　あなたが知っている自転車の交通ルールを教えてください。
（記入例：信号を守る）

たくさん回答をいただきました。回答の多い順に記載します。

回答内容	回答者数	構成率
ながらスマホはしない	23	13.1%
左側通行	17	9.7%
ヘルメット着用	13	7.4%
車道通行が原則	13	7.4%
歩道走行のルール	12	6.9%
イヤホン着用をしない	11	6.3%
信号無視をしない	11	6.3%
並進をしない	10	5.7%
２人乗りをしない	8	4.6%
歩行者優先	8	4.6%
無灯火で走行しない	7	4.0%
手放し運転をしない	6	3.4%
横断歩道走行時のルール	5	2.9%
飲酒運転の禁止	4	2.3%
傘差し運転をしない	4	2.3%
一時不停止	3	1.7%
標識を守る	3	1.7%
ハンドルに物をかけない	2	1.1%
安全確認をする	2	1.1%
自転車の点検	2	1.1%
車両と同じルール	2	1.1%
ブレーキ故障	1	0.6%
合図をする	1	0.6%
整備点検	1	0.6%
前をよく見て運転する	1	0.6%
速度違反しない	1	0.6%
バス通りは乗らない	1	0.6%
踏切はとまる	1	0.6%
反則金がある	1	0.6%
表示を守る	1	0.6%

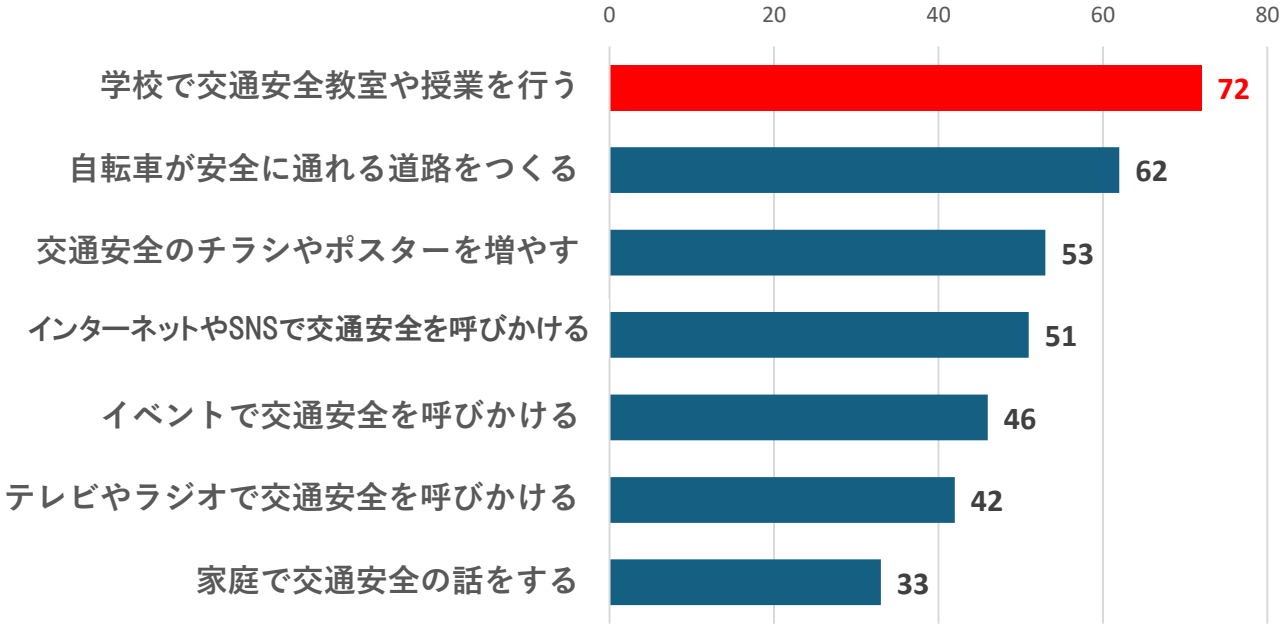
問13　自転車の交通ルールをどこで知りましたか？【いくつでも】

「学校の交通安全教室」が最も多く71人（74.7%）、次いで「テレビやラジオ」が59人（62.1%）、「家族から教えてもらった」が32人（33.7%）で、学校やテレビ・ラジオ、家庭からの学びが多いことがわかりました。



問14　どうすれば自転車の交通事故を減らせると思いますか。
【いくつでも】

「学校で交通安全教室や授業を行う」と答えた人は72人で最も多く、次に「自転車が安全に通れる道路をつくる」62人、「交通安全のチラシやポスターを増やす」53人、「インターネットやSNSで交通安全を呼びかける」51人が多い結果となりました。



【その他の回答】
- 道路脇や歩道の草をかる。
- 自転車専用の道をつくる。
- ヘルメットをかぶらせる。
- 自転車を売っているお店で買ったら、ヘルメットと青切符の対象となる行為の本等をつける。
- 根本的に市民の交通モラルを育てる必要がある。
  自転車事故は自転車を利用する人だけでなく、歩行者や自動車を運転する人など様々な人に原因がある場合がほとんどであり、それをなくすためには幼少期からの教育による交通モラルを育む必要がある。
- 事故の瞬間を見せる。
- ヒカキンに広めてもらう。
- 自転車に乗る人の講習を作って、積極的に参加してもらう。
- 警察や「交通安全」などと書かれたビブスを着用した人を置く。

【最後に】
　今回のアンケート調査から、自転車を持っている方が多い一方、普段乗らない方も多いことや、皆さんが必要だと思う交通安全対策などを知ることができました。
　自転車の交通事故や交通違反を減らせるように、また、効果的な交通安全対策を検討するために、今回のアンケート結果を参考にさせていただきたいと思います。